

# JASIS

## NEWS

# No. 66

2020/3/10

## 日本インテリア学会会報

### ■会長挨拶

#### 学会の「ミッション」について改めて意識したこと

学会長 直井英雄（東京理科大学）

先日、本学会教育研究部会主催の「インテリア系の論文の書き方セミナー」に参加しました。文化学園大学の渡邊先生の適切な説明と、大学院生が主体だと思われる参加者の真剣な聴講態度に、素直に感銘を受けました。

そういえば、本学会で、20年ほど前にも、やはり「研究論文の書き方」というセミナーを開催していたことも思い出しました。当時も、若い会員のために学会としてやるべきこと、いわば学会の「ミッション」を同じように考えていたのだと、妙な安心感を覚えました。

最近の私の経験をもうひとつ。前に会報にも書きましたが、インテリア関連団体のゆるい連携体である「IDM (Interior Design Meeting)」の立ち上げに、協力団体の一員として参加しています。その会合の席で、毎回、強く感じるのは、同じインテリア関連団体といっても、職能団体とわれわれ学術団体とでは、目指すところが全く異なるということです。当たり前といえば当たりのことかもしれませんが、これこそ、「ミッション」の違いにほかなりません。

学会活動の活性化を学会の中だけで考えていると、あれもこれもとつい欲張った考えが浮かんでしまいがちです。インテリア領域唯一の学術団体として、学会ならではの「ミッション」とは何か。様々な現実的な問題を踏まえながら、私自身も改めて考えなければならぬと思った次第です。皆さんといろいろな場で議論しながら、考えていきたいと思っています。

### ■日本インテリア学会 第31回大会（広島） 研究発表講評

□A 論文発表部門

【住環境】 001～005

座長：江川香奈（東京電機大学）

001 「家船の大小の違いによる船上の設備の違いについて」は、丁寧な文献調査とヒアリング調査により、限られた空間での設備や家具の工夫内容を明らかにしている。推定復元平面図、及び同断面図を製作されており、貴重な資料の作成という面でも大変意義のある研究であり、事例数を増やすなど今後の展開も興味深い。

002 「重森三玲の記述における室内空間の構成について」は、文献調査に基づき、重森がデザインした茶室における室内空間に対する思想の解明を試みている。思想の中でも特に重要視されていた「モダン」と「自然」に対する考え方やデザイン手法に焦点を当てた考察を試みている。発表では具体的なデザイン例を提示されていたので、梗概でも同様の図を掲載された方が、より多くの読者にこの研究の魅力が伝わるのではないかと思います。

003 「震災避難者の居住環境に関する研究」は、居住者へのヒアリングとアンケート調査から居住環境への要望を把握し、そこからコミュニティ形成のデザイン手法を考察している。特に高齢者が多く、これらの住宅は、課題も多く、今後も多くの災害が予測されていることから、より具体的な提案につながる調査、分析が望まれる。

004 「戸建住宅の庭のディスプレイが周囲に与える影響についての研究」は、家主のデザイン意図と通行人の読み取る意図の相違などを明らかにしている。ヒアリングの結果が丁寧にまとめられており、大変わかりやすい内容であった。今後は印象評価などの調査も重ねることに

より、詳細にその違いなどが把握できると考えられる。

005 「モバイルアーキテクチャー」は、折りたたみ式テント膜ユニットの開発と応用を検討している。様々な用途への使用が可能なデザインであり、今後の実用化が望まれる。被災した際の応急仮設住宅への実用も目指すとのことで、遮音性が低いという現在の課題の解決が期待される。

#### 【各種施設 I】 006~010

座長：片山勢津子（京都女子大学）

006 小学校の普通教室において、特別な支援を必要とする児童を対象とした、居場所づくりの研究である。具体的には、授業中に座っていることができない児童の終日観察調査・教師へのヒアリング・居場所づくりを繰り返した報告である。棚の置き方や高さ、クッションの設置によって居場所の使われ方が大きく変化することが、説明された。今日的な問題であるだけに、フロアの関心も高く質問が相次いだ。問題改善のための貴重な研究報告である。今後の応用が望まれる。

007 前報に引き続き、支援児童のための教室の居場所に関する調査研究である。居場所づくり前と教室に作られた3例の居場所における、計4つの状況について比較検討がなされた。行動観察記録と教師へのヒアリングなどから、居場所による効果や影響など、環境の違いによって児童の落ち着きや教員からの児童の行動把握のしやすさ、他の児童との交流などが変化することを実証している。貴重な研究なので、教育現場での報告も望まれる。

008 （発表取り下げ）

009 コミュニケーションの手法として注目されている「ストーリーテリング」についての効果を、国立科学博物館における二つの会場展示を対象に把握しようとするものである。展示前で立ち止まった人数の割合を「吸引力」と定義し、吸引力と観覧時間とを調査している。テーマや観覧者の違い、行動把握の方法、会場の照度など設備、音声ガイドとの関係、文字情報の見せ方など、様々な要素が関係するので、調査方法が難しいと思われる。空間との関係性も含めて今後の発展を期待したい。

010 メダボリズムの象徴的作品でもある「中銀カプセルタワービル」（1972）について、中銀設計担当者であった阿部暢夫氏へのヒアリング調査を踏まえた研究報告である。空中テーマ館（1970）との関係、空中テーマ館のユニットバスが菊竹清訓の浴室・ムーブメント（1964）を基にしたものであることなどが、明らかとなった。近年、最認識されているメダボリズムである。中銀カプセルの保存再生が問題となっていることから、記憶が残るうちに詳細な調査が求められる。継続調査が期待される。

#### 【各種施設 II】 011~015

座長：近藤正一（日本文理大学）

011 2012年12月に開港した岩国飛行場の利用者に対しアンケートを実施し2度の調査結果を比較することにより、魅力（利活用を高めていること）と課題（改善に繋がること）を抽出している。好印象だが個性に欠けていることや飛行機利用数は増えたものの近隣住民によるその他の利用は減っていること、売店やトイレの使いやすさなどに継続的改善が必要であることなどが明らかにされた。今後、回答者属性別の分析など研究の進展が予定されており、研究成果の施設改善への活用が望まれる。

012 アイトラッカーを用いて中心視について計測分析することによりJR大阪駅中央口改札前空間の利用者密度が歩行者の注視行動に与える影響を明らかにしている。利用者密度と歩行速度との間に明らかな関係は見られないものの、歩行速度と注視頻度との関係には有意な負の相関があり、歩行時間のうち34~83%は何らかの対象物を注視していることが示された。歩行者がスムーズに利用できる駅周辺空間を実現するための空間設計手法の提示を目的とした研究であり、今後の発展が期待される。

013 病室の色環境により患者のストレスを軽減させることを目指し、これまでほとんど調査対象とされてこなかった一般病棟を対象に個人実験調査を行っている。現在多用されている白は清潔感や明るさの評価が高かった。緑や黄は安心感の評価値が比較的高く、さらに緑はリラックスできる色としての評価値も高かったことから、病室として望ましい色として白に加え緑を用いたインテリアデザインも今後検討が必要であると結論づけている。

014 オフィスビルのインテリアデザイン以前の段階として、オフィスビルの第三者評価システムであるCASBEE、LEED、DBJ Green Building 認証、BREEAM、BOMA360、BELSについて比較考察している。研究の前段階を紹介した研究報告であり、次の段階として、2018年度に実施されたオフィスビル16棟についての評価が予定されている。実務者から見た第三者評価システムの扱いやすさについて質問があった。

015 地域に開いた施設を目的に計画された介護付有料老人ホームAに着目し、築40年を経た特別養護老人ホーム施設Rと比較考察している。どちらの食事スペースにおいてもスタッフと入居者の行動場面が多いものの、2番目に多いのは施設Rではスタッフ同士の発話であったのに対し、施設Aでは入居者同士の行動場面が多く、外部者との行動場面も見られることが明らかにされた。単なる食事空間ではなく、スタッフや外部者を考慮した建築計画の必要性を示唆している。

会場である広島工業大学の学生が参加し、積極的に質問していた様子が印象的であった。大会が研究者・発表

者のみならず次代を担う若者の研鑽の場となっており、たいへん喜ばしい。

#### 【人間工学】 016～020

座長：嶋田 拓（榊明野設備研究所）

このセッションでは、バリアフリー効果の見える化手法に関する研究の発表が5つの連番で行われた。

016 その1として、研究の全体像及び目的についての説明が行われた。METsという身体活動量を評価指標として、住宅のバリアフリー性能の見える化を図り、バリアフリー環境の評価法の確立を目指している。3年の研究計画があり、モニタリング調査、研究ツールの開発を経て実用化に向けた提案を行う。

017 その2として、モニタリング調査の方法について説明があった。自宅内での行動を、簡易活動量計、スマートフォン、ビーコンなどを用いて計測を行う。計測器は装着位置によっても受信精度が異なり、機器設置の工夫を行っている。木造住宅では信号が他の階まで通じてしまうため、木造住宅での受信精度を高めることができれば、他の建物でのモニタリングは容易とのことであった。

018 その3として、モニタリング調査の結果について説明があった。簡易活動量計からのデータ取得は、ほぼ100%の精度で取得できたが、ビーコンによる位置情報のデータ取得は、1日あたり3時間程度となり、短い時間しか取得できなかった。位置情報の取得の際、体の陰や家具の陰になると信号が遮断されることが課題である。

019 その4として、階段歩行実験を行い、計測した結果の報告である。階段の勾配に着目し、METs値がどのように変化するかを計測した。計測には呼気代謝計と簡易活動量計の2種類を用い、比較を行った。水平移動では、両計測器の整合性は見られたが、階段移動では、簡易活動量計の方が小さな値を示した。より精度の高いデータを得るためには、呼気代謝計が望ましいが、長時間使用するのは困難であり、実用化に向け簡易活動量計を代替機器として用いたいところであるが、今回の実験で明確になった差をどのように補完するかという点が今後の課題である。

020 その5として、廊下や段差歩行実験を行い、計測結果の報告である。杖歩行や車いす走行、およびそれらの介助動作における段差乗り越えや狭い廊下での切り返しによる身体活動強度の変化を計測した。計測機器は、その4と同様に呼気代謝計、簡易活動量計を用いた。呼気代謝計により得られたデータからは、段差が高いほど、廊下幅が狭いほど車いす介助者の負担が大きく、METs値が大きな値を示したが、簡易活動量計は呼気代謝計が示した値より小さな値を示した。原因として簡易活動量計は内部の加速度センサーの出力をもとにMETs値を

算出するため、身体負荷が大きくとも動作自体が緩やかなものは過小評価されたことが一因ではないかと推測される。実用に向けた簡易活動量計の利用には、この両機器の差の補完方法の確立が今後の課題である。この補完方法が確立されれば、実用化に向けて大きく前進するであろう。実用化されれば、実際の設計にも応用されることが期待でき興味深い研究である。

#### 【住生活】 021～025

座長：松田奈緒子（大阪産業大学）

021 置き畳の現状と利用実態について、全国の畳店を対象にしたアンケート調査から分析を行った継続研究である。置き畳の使用は、和室の有無に関わらないこと、リビングに圧倒的に多いこと等を明らかにし、求められる形状やデザインにまで言及している。今後、ユーザーを対象にした調査も計画中とのことである。さらなる展開が期待される。

022 住宅のインテリアを工業デザインの集積と捉え、その発達と変遷について分析を行う継続研究である。ここではキッチンの創成期に携わった人々へのオーラルヒストリー調査を主に、キッチン業界確立の過程、形状・性能・部品の規格化、キッチン独自の素材の開発等について明らかにした。会場からの質問も多岐に渡り、関心や期待の高さが窺えた。

023 リビングルームのインテリアに変化の兆しを読み取り、今の暮らしに求められるリビングについてwebアンケート調査から詳しく調べる調査研究である。特にリビングでの生活行為や広さに着目し、広さがインテリアの満足度に比例していること、広ければ自分らしい理想のインテリアを演出したいと思う生活者が増えることを示した。

024 023の続編で、リビングの広さに焦点を当て、広いことによる効用と現在の広さとの関係や、現在していること（現状）と広げたいこと（理想）とのギャップ、さらには、広さが求められるであろう10の暮らしのシーンに対し具体的にどの位の広さがニーズとしてあるか等についてweb調査から明らかにした。会場からは、023とともに家族周期と広さの関係についてさらなる分析を望む声が挙がり、今後の展開も期待される研究である。

025 他世帯同居に共助の視点から着目し、二世帯同居家族の距離感について調査した研究である。web調査を通して、同居のきっかけ、同居のメリット・デメリット、交流実態等を親世帯、子世帯それぞれから掘り上げ、世帯間に温度差があることを明らかにした。互いの“社会性”を維持できる空間的工夫の必要性を指摘した興味深い一報である。

## 【インテリアエレメント・材料】 026~030

座長：高橋正樹（文化学園大学）

026 本研究は、同じ室内空間であっても、錯視を利用することで、見かけの室内の広さ感が増大または減少するという仮説を、調査データをもとに検証したものである。研究方法としては、家具の配置が異なる実際の室内空間7つを対象に、一対比較法によって「広さ感」等を34人の女子大学生に評価させ、数量化1類によって分析を行った。その結果、入口からみて左側の壁面が空いていることが広さ感に貢献していることが明らかとなった。これは視野の左半分を重要視して、もう一方を無視しがちなヒトの認知傾向である「シェードネグレクト」が、影響を及ぼしているのではないかと、との考察を行っている。

027 本研究は、住宅の階段の蹴上寸法の調整を1段目で行うことの妥当性について実験を通して考察したものである。企画化された部品で構成される階段は、住宅毎に床下地の断熱材等による床厚の差を吸収するため、最下段で調整することが多い。しかしどの程度まで可能なのか実証的に検討した研究は見られない。本研究では蹴上踏面が変更可能な実験装置を用い、男性19名女性2名の計21名を対象に、質問紙及び動画像解析を用いて検討した。その結果、蹴上の差が1段目においては15mmでも認識されず、21mmで認識され始めることがわかった。よって最下段で調整する場合は+15mm程度までであれば違和感が少なく妥当であろうとの結論を得た。

028 本研究は、現代の1人暮らしの学生が、「自炊」を本来の「自炊」と捉えているのか、「調理済食品」を「自炊」と考えているのかについて考察し、「自炊」のしない原因をキッチン空間の広さ・位置の観点から考察することを目的としている。男子大学生33名、女子大学生24名のアンケート回答結果と観察調査結果より、学生はお惣菜の調理済食品の嗜好が高く、冷凍食品においては、男子は炒飯、女子は唐揚げが好きことがわかった。自炊をしないのはキッチンが狭いことが原因ではなく、十分ではないものの料理行為をするスペースはあることがわかった。結論として学生にとって冷蔵庫は生活の必需品であり、自炊という調理をせずに短時間で食べられる調理済食品の存在も大きいことがわかった。

029 本研究は、木材、鉄及びコンクリートなどの様々なインテリア材料の好みが、気候風土が異なる我が国においては、生活域の違いや職業により異なるのではないかと、という仮説を検証するため、アンケート調査のデータを用いて検証したものである。調査は、全国の建設関係者、中国地方M大学及び関東地方のS大学の学生を対象とし819件から有効回答を得た。結論としては、近年の環境問題に対応した材料である木、石、ガラスの嗜好性が高いことが明らかとなった。

030 卵殻は高温焼成を行うと、強アルカリを示し、高い抗菌性を有することが知られており、土木・建築分野において注目を集めている。そこで本研究では、インテリアの分野においても内装において湿式仕上げや、クロスに混ざるなど、応用的な利用ができないか検討した。具体的には、卵殻をセメントに入れた場合の強度等について実験を行った。その結果、強度、VOCの吸着、抗菌検査において良好な結果を得ることができた。特に、卵殻5%の混入の場合は、水セメント比65%の場合、強度が向上しているという結果が得られた。今後は抗菌等の持続性について検証を行い、クロスや珪藻土等の内装材への応用についても調査を行う予定とのことである。

## 【インテリア観】 031~035

座長：西山紀子（畿央大学）

031 「インテリア美学」（小宮）は、インテリア学の一分野として、インテリア美学の確立を検討したものである。建築、および、芸術全般における美学を整理してインテリア美学の必要性と命題を明らかにする、美を自然／人工／人間の3種に分類してインテリア美の位置付けを把握する、人間の感性に基づいて美を規定する、11段階のインテリア美評価軸を設定するなど、ここでは研究の枠組みが示された。今後、これらの枠組みに基づいた研究の展開が期待される。

032 「雑誌『ELLE DECO』に基づくインテリアスタイル用語の変遷」（松田）は、現代生活におけるインテリアスタイル用語の発生・消失・定着過程を明らかにしたものである。雑誌等から収集したインテリアスタイルを表現する語と、インテリアスタイルを表現する語に関わるキーワードを、当時の社会・経済的動向を関連付けて読み解き、新たな用語は定着することなくマイナーチェンジの繰り返しにより生み出されてきたことが示された。このような用語の系譜を踏まえ、インテリアスタイルに関する研究の深められることが期待される。

033 「インテリア空間のユニバーサルデザインの推移の考察3」（植松）は、住宅の内部空間について、メーカーの取り組みをユニバーサルデザインの視点から考察したものである。住宅展示場での調査を通し、玄関ではベンチ、手摺りの設置が少ないこと、トイレでは、車いすでの使用時、横入り（便器に対して横から入る配置）が有利であること、浴室では濡れ防止に対して過大な内径の浴槽が多かったことなどが報告され、展示住宅において細やかな配慮を見せることの必要性が示されていた。

034 「住まいの絵本によるライフデザインのプロモート」（北浦）は、これからの時代に沿う暮らし方とライフデザインの方向性を絵本から考察したものである。近年の絵本には、高齢夫婦・単身者、非血縁家族等が取り

上げられるなど家族のありように時代の変化が大きく反映されてテーマも広がり、共生の描かれ方の視点が人や集団との関係性から社会との関係性へと変化してきていることなどが報告された。デジタル化が急速に進展する時代にあつて、住まいの絵本の描かれようにはさらなる関心もたれ、継続的活動が望まれる。

035 『『ISU～TEN～Reflection』一連の暮らしを考えるExhibitionを終えて(その1)』(来海)は、インテリアデザインイベントの類型化と経年変化を主催者の視点から考察したものである。2つの成功事例を通し、デザイン意識向上に対してはイベント継続に意義があること、イベントの構成、仕掛け、PRのみならず、その空間演出に関してもSNS活用の影響が大きいこと、そのため常なるアップデートが必要であることなどが示された。今後のイベント開催に直截的に活用できる有意義な報告であった。

#### 【教育】 036～040

座長：船曳悦子(大阪産業大学)

036 小学校の大規模な分離新設に着目し、両校児童の学校施設や学校家具、友人関係への思いについて調査を行い、教育インテリア環境や児童の就学ケアに役立てることを目的とした研究である。分離・新設された2校の児童を対象に、放課後の遊び相手の変化、学校施設に対する印象、好む学校家具の状況を把握し、児童が受ける影響について分析している。今後、記述式の回答についての分析、報告が期待される。

037 036と同じ小学校2校を対象として、ICT活用を踏まえた小学校における情報伝達環境としての教室計画に資する知見を得ることを目的とした研究である。学級担任を対象にアンケート調査を行い、電子黒板の使用に伴う教室計画への配慮点を把握したものである。結果として、電子黒板の設置位置が教室平面の机や椅子のレイアウトにも影響を与えることが示された。本研究では、ICT環境としてとくに電子黒板に注目していることから、題目にその旨を明示したほうが分かりやすいと思われた。

038 建築・インテリア教育分野におけるBIMは、個別の知識を融合し、包括的かつ実践的に理解するための有効なツールとして期待されている。そこで、CAD製図受講前の学生とCAD製図受講後の学生に対して同様の問題を与えて、理解度の変化を見ることを目的とした研究である。CAD製図のBIMを用いたインテリア製図・図学教育より、空間把握・理解度は若干低下したという結果であった。BIMのメリットとデメリットについて、継続的な検討が期待される。

039 本報告は、総合学科で学ぶ高校生を対象として、サステナブルデザインの観点からの教材開発および授業法に関する提案である。課題内容は、体育館の床改装

工事で生じた廃材のヒノキ間伐材を原材料とした木製収納ケースの作成である。生徒による授業評価の結果より、課題に対する学生の満足度は高く、教員と生徒のコミュニケーションが良好であることが示された。廃材を活用することについての生徒の感想や意見が示されると、よりこの教育実践の特徴が明確になると思われた。

040 超スマート社会の実現について、デジタルネイティブ世代である大学生に対してICT、IoT、AIを含むスマート化に対する捉え方を調査し、スマート化の課題や役割を明確にすることを目的とした研究である。デジタルネイティブ世代は、超スマート社会に対する認知・受容性が高いというアンケート調査結果であった。今後、より詳細な調査と分析が期待される。

#### 【歴史】 041～045

座長：橋本都子(千葉工業大学)

041 藤井厚二がデザインした独立家具に焦点をあてて実測することでその特徴を考察するとともにデザイン思考を探る研究である。現存する椅子やテーブル類の記録とCADによる3D化を行いその特徴を詳細に考察した結果、靴を脱ぐ日本住宅や和装への配慮が見られ、日本人が培ってきた伝統的な和の部屋に少し変化を加えることで椅子式の生活ができることを示したことが示唆された。また、藤井は独自の和洋折衷型住まいに適合する家具を模索したこと、和の心を重んじた繊細な家具を制作して改良への試行錯誤も行っていったことなどが明らかになった。未調査である永井邸や住宅を含めた考察など、今後のさらなる成果が期待される。

042 国分寺市において2017年に現存が確認された建築家・川崎忍の設計による洋館(沖本邸)の建築とインテリアの概要について報告する研究である。設計者である川崎忍について、建設の経緯について、建築の概要、洋館のインテリア概要とその特徴等について詳細な調査と報告がなされている。とくに洋館の玄関ポーチや居間の暖炉に特徴が見られ、さらに川崎忍は家具の造作デザインも手がけていたことがわかった。現在もひきつづき建築・家具に関する実測調査を進めているということで、今後はさらに個々の詳細な調査に関する報告に期待したい。

043 イギリスのテラスハウス(連続住宅)に宿泊して得た知見をもとに、伝統的な街並み保全と設計上の工夫について書き(描き)とめることで、日本のアパートメント設計に関する議論の機会を提供しようとする研究である。イギリスのテラスハウスの多くは庭を使った増築の標準化によってタウンハウスへ、日本風という長屋から町屋へ、増築および改修により不動産価値を維持していたことがわかった。現地で採集した生の情報と繊細で詳細な貴重なスケッチとともにテラスハウス改修前後の状況が報告され、さらに居室への日射や採光の考察に

もふれており、今後も続く旅の報告に期待したい。

**044** 日本近代建築におけるステンドグラス製作で活躍した木内真太郎の昭和初期のステンドグラスについての調査・考察に続いて、夙川教会と旧広島地方気象台に関する昭和前期のステンドグラスに関する研究である。木内家資料などを考察した結果、長年設計者の詳細が不明であった夙川教会について、そのデザイン画は梅木省三が描いたこと、教会の設計は梅木が関係ら者の協力を仰いで行ったことなどが分かった。また、江波山気象台ステンドグラスについては、木内家資料により玲光社が製作したなど興味深い幾つかの事項が明らかになった。

**045** 甲子園ホテルの大宴会場における装飾の特質について、仏教寺院における天蓋との類似に着目して論じた研究である。設計者の遠藤新が発表した建築理念「第3のもの」に着眼して、甲子園ホテルではキリスト教精神に基づき仏教精神を取り入れて調和ある建築表現を実践しようとしたと推測し、甲子園ホテルの建築装飾を「第3のもの」を手掛かりに読み解き、特に4辺の黄金装飾について考察している。今後の課題として、四角錐の天井はホテル完成時には異なった形状・仕上げであったことからその原型が明らかになれば4本柱に囲まれた空間の意味が明確になると述べられ、写真や図版の掲載と共に今後の展開が期待される。

## □B パネル発表部門

### 【設計】 046～049

座長：内田和彦（株オカムラ）

パネル発表部門においては4件の発表があり、いずれも実務としての発表で、よく考えられた成果が窺えた。

**046** 人口5000人の過疎地域における地域活性化と観光拠点としての改修ニーズを満たすための工夫が試されている。築70年以上が経過した歴史的価値もある石倉をありのまま残すという懐古的保存策ではなく、耐震性を向上させつつ石倉の内部構造も確認できるものとしている点も注目すべき点となっている。

**047** 中国での商談を目的とした展示会は増加傾向にあり、展示ブースが集客のための差別化を求められている背景があり、クライアントからの要求に如何にして答えるか苦心した作品の発表であった。黒と黄緑を基調とするコーポレートカラーのブースをひと際目立たせるための手法としてニスを使用して光沢の強い黒を表現した点で差別化ができた。但し白のニスはあまり効果的ではなかった。

**048** 近年のリノベーション空間が大部屋化する傾向に対しての可変的な境界家具のあり方に対するの発表であった。横棧が付いたフレームをスライド可能にすることで緩やかに空間を仕切ることを可能にしている。横棧に遮蔽物を掛けることでさらに大きく空間を可変できる

点が工夫されていた。

**049** 良質の眠りをテーマとする宿泊施設に「伝統」や「金沢らしさ」を織り込みつつ「インスタ映え」「インバウンド」といったキーワードを狙いとして埋め込むバランスの難しさと苦心したであろうことが推し量れる。京唐紙、江戸唐紙とは誕生背景の違う「金沢からかみ」は伝統的なものではなく、伝統や金沢らしさを表現する文様をモチーフとして作られた新たな襖紙である。若手表具師が業界振興の仕掛けとして立ち上げた一つのムーブメントが、話題性を生み、金沢からかみをアートとしてホテルの室内空間に導入するといった新たな試みが生まれ、海外からの観光客が興味を持つ、からかみづくり体験といった新たな価値も生み出されるといった流れを生み出しているという点で、インテリア業界の今後の振興のヒントとなる興味深い発表であった。

## ■令和元年度 日本インテリア学会 第2回理事会議事録

記録 松崎 元（千葉工業大学）

日 時：令和元年10月27日（日）12:10～13:00

会 場：広島工業大学 三宅の森Nexus21（1001）

出席者：直井、加藤、西出、内田、江川、小澤、片山、河田、河辺、小宮、白石、高月、谷川、平田、ベリー、棒田、松崎、松本、森永<19名>  
委任状6通

井上評議員（アーカイブ化委員会）

### 配布資料：

- 1) 令和元年度第2回理事会議事次第
- 2) 日本インテリア学会著作権規定（第6案）
- 3) 入退会者名簿（2019年6月9日～10月17日）
- 4) 令和元年度第1回理事会議事録
- 5) オフィスのインテリア見学会報告（事務局）

### 議 事：

1. 開会宣言（白石）

2. 定足数の確認（議事進行：直井）

本理事会の出席者は25名中19名、委任状6通で、理事会の成立に必要な定足数（過半数：会則17条）を満たしている。

3. 前回議事録の確認

・令和元年度第1回理事会議事録（資料4）の確認は省略し、資料1の次第に基づいて議事の進行を始めた。

4. 審議事項1：論文集・梗概集アーカイブ化の報告について（アーカイブ化委員会）（資料2）

- ・アーカイブ化委員会の井上委員より、作業の状況が報告された。現在までの進捗は全体の50%に満たないが、来年から再来年には全ての論文をアップロードする予定である。
- ・J-stageにデータを登録するには、ISBNコードを取得する必要があり、会長名で捺印の上、申請しなければならない。
- ・小宮委員長より著作権規定（第6案）（資料2）について、全文を読み上げ説明がなされた。建築学会およびその他デザイン関連協会の規定を参考に、最終案として用意したものである。事前にメールで送った資料から第3条「著作権の帰属」3と4について赤字で修正した。
- ・議論の結果、さらに以下の点を修正することで、本理事会において承認することとなった。

**第3条** 4 本会は、本会に帰属する著作物を本会が掲載を委託した電子図書館（「館」を削除）に掲載することができる。

**第4条** 著作者は、「著作物が」を削除し移動→

①著作物が第三者の知的財産権を侵害していないこと

- ・自身のホームページに掲載することは制限しない。
- ・本規程の承認については、この理事会で決定し、総会で報告する。

5. 審議事項2：期限付き研究部会の公募について（研究部門）

- ・今年度の期限付き研究部会について、研究部門の西出副会長より、あらためて募集案内があった（10/31事務局必着）。

6. 審議事項3：入退会者の承認について（事務局）（資料3）

- ・白石総務委員長より、入退会者名簿（2019年6月9日～10月17日）について説明があり（入会：正会員9名、準会員：18名、退会：正会員11名、準会員7名）、異議なく承認された。
- ・高月理事より、本日研究発表を行った4月入会の博士課程大学院生について、大会案内の郵便が届いていないとの申し出があったため、事務局で発送名簿を確認する。

7. 審議事項4：次年度大会開催場所について（総務委員会）

- ・白石総務委員長より、次年度大会の開催地が未決定で、本日発表することはできないが、年内には会場を決め、お知らせする予定であるとの報告があった。

8. 審議事項5：今年度投稿論文について（論文審査委員会）

- ・AIDIAの論文募集について、平田副委員長より、中国からの連絡がなくホームページでも動きがないため、渡辺委員長の見解として、今年度の論文誌発刊が困難ではないかとの報告があった。
- ・論文報告集への投稿について、これまでメールと郵送の両方で受け付けていたが、この2、3年はメール添付による投稿のみであった。委員が持ち回りで担当していることもあり、次年度以降はメールによる投稿のみで受け付ける旨の報告がなされた。
- ・学会名（@jasis-interior.jp）のメールも利用できるが、送付できる容量や使い勝手の面で、しばらくは委員が共同作業しやすいgmailで対応する。

9. 審議事項6：その他

●2020～22年度理事・評議員選挙について（選挙管理委員会）

- ・選挙管理委員長の村川評議員に代わり、白石総務委員長から、各支部に対し2月末までの評議員選出依頼があった。その後、理事の選出、現理事による新理事の承認、新理事から会長および副会長が選出されるとの説明があった。

●セミナー開催のお知らせ（教育研究部会）

- ・金子部会長に代わり、江川理事から「論文の書き方セミナー」開催のお知らせと参加の依頼があった。会費は500円で、学生を中心に30名ほどの参加者を見込んでいる。詳しい内容はホームページで告知する。

●事務局移転後の状況について（事務局）

- ・樺田事務局長より、移転後の事務局運営状況について、報告があった。慣れない仕事も多く、ご迷惑をおかけしているが、来年にかけて徐々に安定した体制に整えていく。

- ・9月27日（金）、プラス株式会社と株式会社ゼン情報システムズの協力により、オフィスのインテリア見学会を実施した（資料5）。予想を上回る21名の参加者があり、これを機に各支部と事務局が協力し、見学会を開催するなど学会の活性化に貢献したい。

●IDMシンポジウム・懇親会のお知らせ（直井会長）

- ・本学会が参加しているIDM（Interior Design Meeting）の企画として、主要5団体の代表者がそれぞれの歴史を語り合うシンポジウムを11/29（金）15:00～3時間（参加費無料）、東京デザインセンター（五反田）にて開催し、会費制で懇親会がある。

以上

## ■平成31（令和元）年度委員会だより

### □総務委員会

委員長 白石光昭（千葉工業大学）

今年度もいよいよ終盤になり、お忙しいことと推察いたします。

例年のことではございますが、今年度も中国・四国支部のご協力により、研究発表大会が無事開催できましたことに感謝申し上げます。また、会員の皆様にはご連絡が遅くなりましたが、2020年度は関西支部（会場：武庫川女子大学）でお引き受け頂きました。関西支部の皆様には、大変恐縮ですが何卒よろしくお願い致します。そして、次回大会も成功裏に開催できることを祈念しております。

各支部におきましては、選挙管理委員会から評議員の選挙依頼が届き、進められていることと思います。評議員の選出は学会の活性化にもつながる大切な行事になりますので、ぜひ多くの皆さんの投票をお願い致します。

事務局が移転しまして、最初の決算を迎えます。事務局と総務との距離が離れたため、もしかしますと会員の皆様にご不便やご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、少しずつ改善していきますので、何卒ご了承いただきたく、よろしくお願い致します。

最後に、多くの皆様の参画をもとに、次年度も本学会の活性化にむけてともに活動をしていきましたらと考えておりますので、よろしくお願い致します。

### □広報委員会

委員長 棒田邦夫（金沢学院大学）

会報第66号を発行いたしました。

事後報告になりましたが、今年度総会後に開催しましたシンポジウムの記録誌を発行、会員の皆様に郵送いたしました。発行が大変遅くなり申し訳ございませんでした。何分にも相手のあることでもあり、調整に手間取りこの時期となってしまいました。ご理解のほどよろしくお願い致します。なお、郵送につきましては会員名簿に従い行いましたが、手違いにより届いていない会員がいらっしゃいましたらご連絡ください。早々に郵送いたします。

会報につきましてお願いがございます。会報は年3回の発行をしておりますが、記事内容は各委員会、各研究部会、各支部報告が中心のいつもどおりの情報発信となっており全会員が個々に、自由に、参加できる情報発信とはなっておりません。会報を発行する広報委員会と

しては、1人ひとりの会員が情報発信できる会報を目指しております。そのためよい項目がございましたらご提案ください。現在その一つに「インテリア学講座」がありますが、この項目以外にもアイデアありましたらよろしく願いいたします。

お詫び：例年この春号には「インテリア学講座」と題した会員の取り組みページを掲載しておりましたが、今号には掲載ができませんでした。お詫びいたします。

### □国際委員会

委員長 ペリー史子（大阪産業大学）

今回はありません。

### □論文審査委員会

委員長 渡辺秀俊（文化学園大学）

2019年度の日本インテリア学会論文報告集30号については、昨年9月末の応募締め切りまでに24編の応募がありました。2018年度の応募数は12編でしたので倍増することになります。現在、査読の最終段階です。応募していただいた会員の皆様、査読をしていただいた査読委員の皆様には、厚く御礼申し上げます。来年度も多くの会員の皆様からの論文投稿をお待ちしております。

アジア地域のインテリア系の学会論文集AIDIA Journal 2019については、現在までに募集情報が入手できていません。ついては、本年度は残念ながら募集なしとなります。今後、AIDIAとの連携をどうしていくのかについては、学会全体の課題として検討していく必要があります。

本学会の論文審査について、今後とも会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

### □表彰委員会

委員長 高月純子（女子美術大学）

日本インテリア学会 第31回大会（広島）にて、理事・座長による審査の結果、以下の準会員（学生）による優秀な発表に対し「大会発表奨励賞」を授与しましたので、お知らせいたします。今後の更なる研究の発展と社会でのご活躍を期待します。この度はおめでとうございました。

#### ◆日本インテリア学会 第31回大会（広島）

学生発表奨励賞 審査結果（発表順・敬称略）

- ・家船の大小の違いによる船上の設備の違いについて  
一広島県尾道市吉和漁港の家船の居住環境の研究—  
松浦直哉（広島工業大学大学院）・平田圭子

- ・震災避難者の居住環境に関する研究  
ー復興公営住宅のコミュニティ計画とデザインー  
岡部真純（日本大学大学院）・市岡綾子
- ・バリアフリー効果の見える化手法に関する研究その5  
ー評価法確立に向けた廊下および段差歩行実験ー  
杉山遥（千葉大学大学院）・吉岡陽介・白石光昭・  
布田健・高橋正樹・上野弘義・馬淵大宇・直井英雄
- ・小学校における落ち着ける居場所づくりの報告  
ー特別な支援を必要とする児童のための学習環境づくり  
その1ー  
佐藤里咲（千葉工業大学）・荒井みなみ・橋本都子・  
上野佳奈子
- ・落ち着ける居場所の効果に関する検討  
ー特別な支援を必要とする児童のための学習環境づくり  
その2ー  
荒井みなみ（明治大学）・佐藤里咲・橋本都子・  
上野佳奈子

日本インテリア学会 第31回大会（広島）にて、広島工業大学 三宅の森Nexus21・4階コミュニケーションプラザにおいて第26回卒業作品展を開催致しました。展示作品数42作品（大学33作品、短期大学3作品、専門学校4作品、高等学校3作品）。下記の作品に賞を授与しましたのでお知らせいたします。今後の更なる研究の発展と社会でのご活躍を期待します。この度はおめでとうございます。受賞作品は学会ホームページにて閲覧ができます。

◆第26回卒業作品展 審査結果（敬称略）

【最優秀作品賞】（1点）

「REBO（レボ）ー鉄素材の特徴を活かした椅子ー」  
渡辺悠介（名古屋工業大学）

【優秀作品賞】（3点）

「町の中（まちなか）」

二見泉（東京藝術大学）

「ハグくみー“くつついちゃった”を味わうー」

小栗里奈（名古屋芸術大学）

「Local Shelter（ローカル シェルター）」

阪出拓実（広島大学）

【奨励賞／高等学校優秀賞】（1点）

「収納BOXチェアー」

渡辺梨奈絵（福岡県 福岡市 博多工業高等学校）

〈審査員〉（敬称略）

直井英雄（審査委員長 日本インテリア学会 会長）

平田欽也（第31回広島大会実行委員）

細田みぎわ（第31回広島大会実行委員）

船曳悦子（日本インテリア学会 教育部会員）

高月純子（日本インテリア学会 表彰委員会）



第26回卒業作品展 会場風景（広島工業大学）

◆日本インテリア学会 第26回卒業作品展 巡回展

2019年11月13日（水）ー17日（日）タチカワブラインド銀座スペース オッテにて開催しました。作者、担当の先生、ご家族、友人、一般の方など、遠方からのご来場も頂きました。多くの方のご協力によって運営開催することが出来ました。ありがとうございました。



卒業作品展巡回展 会場風景



作品名『町の中（まちなか）』東京藝術大学美術研究科デザイン専攻空間設計研究室 卒業生／二見泉さん（巡回展会場にて）



作品名『ハグくみー“くつついちゃった”を味わうー』名古屋芸術大学デザイン学部デザイン学科スペースデザインコース 卒業生／小栗里奈さん（巡回展会場にて）

## ■平成31（令和元）年度支部だより

### □北海道支部

支部長 小澤 武（小澤建築研究室）

今回はありません。

### □東北支部

支部長 早野由美恵（東北芸術工科大学・山形大学）

今回はありません。

### □北陸支部

支部長 棒田邦夫（金沢学院大学）

年の瀬の12月7日（土）日航ホテルB1Fボルテ金沢「八兆屋駅前店」にて支部研究懇談会を開催しました。その席上次年度の活動として長岡研修旅行を決定いたしました。8月2日（日）3日（月）1泊2日で長岡造形大学、隈研吾設計の長岡シティホールプラザ、長岡花火など長岡を視察する予定です。支部の垣根を越えて、他支部の会員の参加も大歓迎です。興味のある方は棒田までご連絡ください。



北陸支部研究懇談会

### □関東支部

支部長 内田和彦（㈱オカムラ）

今回はありません。

### □東海支部

支部長 河辺伸二（名古屋工業大学）

12月18日（水）名古屋工業大学にて役員会を開催しました。①支部長・評議員選挙の実施に当たり支部選挙管理委員を選定しました。②支部創立30周年事業「ミャン

マーインテリア研修」につき報告がありました。期日は3月13日（金）～18日（水）中部国際空港発着の6日間、1月26日現在15名参加となり実施が確定しました。

10月18日（金）に、当支部も名を連ねている中部インテリアデザイン連絡会の第25回リレーセミナーで、上海で活躍中の建築家・大島弘資氏による講演会を、TOTOプレゼンルーム1・2（大名古屋ビルヂング12F）にて開催しました。演題は「三つの事象からみえる中国建築・インテリア」でした。①格差問題、②少子高齢化、③情報化の進展が中国での建築・インテリアのデザインにいかに関与しているか？現地の実務や生活体験を基にお話をいただきました。さらに中国で手がけてこられた国家プロジェクトを含めた数々の建築作品を紹介いただきました。参加者は学生を含めて44名で、大変有意義な講演会となりました。

1月23日（木）に、中部インテリアデザイン連絡会の新年会を名古屋工業大学内カフェサラで開催しました。プロジェクターによりインテリアの写真を投影し、各自情報交換を行いました。参加者は22名で、有意義で楽しい会となりました。

### □関西支部

支部長 片山勢津子（京都女子大学）

この度、第32回大会を関西支部で担当することになりました。日程は、10月24日（土曜日）25日（日曜日）、会場は武庫川女子大学です。

武庫川女子大学甲子園キャンパスには、フランク・ロイド・ライトの愛弟子である遠藤新（1889-1951）が設計した「旧甲子園ホテル（1930）」が、今も校舎として使われています。そこで、テーマを「阪神の近代建築」として、実施に向けての準備を始めました。皆様のご参加をお待ちしています。



武庫川女子大学甲子園会館（出典：武庫川女子大学HP）

## □中国・四国支部

支部長 谷川大輔（近畿大学）

2019年10月26・27日に広島で行われました第31回日本インテリア学会大会は、おかげさまで盛況のうちに終わることができました。ありがとうございました。その前後におきまして中国・四国支部では、2019年10月12日に、広島市まちづくり市民交流プラザ マルチメディアスタジオにおいて、建築家で広島工業大学教授の前田圭介氏の「境界という関係性の文化」と題する講演会を行いました。広島市内の学生を中心に、多くの方に参加して頂きました。また、2019年11月23日24日には、下記のイベントを行いました。中国・四国支部では、大会運営だけでなく、マンセル（インテリア系学生団体）を中心に活発な活動を展開しています。

### 広島デザインデイズ2019参加

- 主催：日本商環境デザイン協会中国支部
  - 共催：広島県、日本サインデザイン協会中国地区、日本インテリア学会中国・四国支部
  - 協力：大光電機㈱
  - 会期：2019年11月23日（土）24日（日）
  - 会場：イノベーション・ハブ・ひろしまCamps
  - 内容：Camps学生デザインコンペ、デザインリーグ学生コンペ、窪田茂氏デザインセミナー、KUKAN DESIGN AWARD2019他映像・パネル展示
- 「広島デザインデイズ」は、中国地方のインテリア関連の団体、企業、大学等が、デザインを「見る、学ぶ、体験する」ことを身近に感じるイベントとして毎年開催している。今回も、本学会中国・四国支部学生組織（名称：マンセル）の学生が準備・運営に参画した。



学生デザインコンペプレゼン



公開審査風景

Camps学生デザインコンペでは、広島県の依頼をもとにチャレンジ、つながり、イノベーションをキーワードにして当会場の将来的な魅力を高める提案をした。近畿大学工学部、広島工業大学、広島女学院大学、穴吹デザイン専門学校学生の混成4チームが、装置や空間の視点から広島県、団体会員へ向けてプレゼンをした。審査員からは提案を基に将来的な活用を検討したいというコメントがあった。

インテリア分野のイベントとして産官学が交流を深め、さらに充実した内容で盛り上がっていくことに期待したい。（担当：松尾）

## □九州支部

支部長 森永智年（九州女子大学）

今回はありません。

## ■平成31（令和元）年度研究部会だより

### □歴史研究部会

部会長 河田克博

見学会を、令和元年（2019）10月26日（土）に、広島市内の建物を大会実行委員会との共催で開催いたしました。世界平和記念聖堂を皮切りに、基町高層アパート・おりづるタワー・原爆ドーム・平和記念公園・広島原爆死没者追悼平和祈念館・平和記念資料館を見学しました。基町高層アパート以降は、アーキウォーク広島代表の高田真さん等の詳しい解説を聴きながら回りました。これまで漠然と見ていた建築設計・施工の裏話を拝聴し、大変勉強になり、まさに目からウロコの情報が多数ありました。あいにくのぐずついた天気でしたが、建物内に居る時は雨が降っているのに、どういうわけか外部移動している時はほとんど雨が避けられました。熱心に見学する会員を天が見守ってくれたのでしょうか。徒歩移動もかなりあり、例年にない強行軍でしたが、充実した内容だったお蔭で、ほど良い疲れで終わりました。参加者は約40名、見学会後の懇親会の料理・お酒がおいしく感じられる見学会となりました。

### □人間工学部会

部会長 白石光昭（千葉工業大学）

今年度も活動できておりません。会員の皆様からご要望があればぜひご連絡下さい。また、部会の活動に関心

がある方もぜひご連絡下さい。お待ちしております。  
(mitsuaki.shiraishi@it-chiba.ac.jp)。

## □教育研究部会

部会長 金子裕行 (千葉県立市川工業高等学校)

### インテリア系の論文の書き方セミナー

過去、研究論文セミナーは日本インテリア学会関東支部研究発表手法研究会が主催し、2000年10月に開催されています。今回は教育研究部会がインテリア教育の観点からセミナー参加者の対象をインテリア学会に論文投稿、口頭発表を検討されている方、インテリア学んでいる学生や大学院生、インテリア教育に携わっている方、インテリア関係の実務者で研究論文をまとめようとしている方など、会員、非会員を問わず募集し、インテリアに関する研究の範疇、研究テーマの作り方、論文執筆上のルール、論文の評価観点、研究倫理等を学習する目的で開催を試みました。

- (1) : 期 日 2019年12月21日 (土) 14:00~16:00  
: 会 場 東京オフィスショールーム  
: 講 師 文化学園大学教授 日本インテリア学会  
論文審査委員会委員長 渡邊秀俊  
: 参加費 (資料代) 500円

#### (2) セミナーの参加者の様子

参加者は12名でしたが、セミナーを受講する目的を達成するために、終始真剣な眼差しで講師の説明に集中している姿が印象に残りました。セミナーの内容に関する質疑応答においても積極的な意見交換がなされていました。

#### (3) セミナーの内容、アンケート結果の報告

セミナー後アンケートを実施しました。今後はインテリア学会 (大会) にてセミナーの内容とアンケートの結果を使って報告することを考えています。

## □期限付研究部会

部会長 西出和彦 (東京大学)

## □スマートインテリア研究部会

部会長 中村孝之 (生活空間研究室)  
幹 事 来海素存 (神戸女子大学)  
主 査 井上 徹 (芦屋大学)  
委 員 小柳智裕 (就実大学)

近年、高度化するHEMS・BEMS、生体・環境・建物情報を活用したIoTやRT技術が建築空間に導入され、空間の知能化が進展しています。それをインテリアの視点から

“スマートインテリア”と呼び、新たな提供価値や設計要件について研究しています。

本年度の研究では、生活の情報化が当たり前となったデジタルネイティブ世代への予備調査を行い、「デジタルネイティブ世代の超スマート社会観の考察—スマートインテリア研究その2」<小柳智裕・井上徹>、及び「スマート化に対する大学生の意識調査と考察」<小柳智裕・池田聡・井上徹> (日本教育情報学会第35回年会 (2019年8月)) として報告しました。今後は、関西支部会員を中心とした研究会として、調査研究を継続して行きます。ご興味のある方は、sin@jasis-kansai.jp (井上・小柳) までご連絡ください。

## □甲子園ホテル・帝国ホテル比較研究部会

代表者 黒田智子 (武庫川女子大学)

「利他」を視点に、帝国ホテルと甲子園ホテルの比較を行うにあたり、林愛作が山中商会ニューヨーク支店に勤務した1900年から1908年までの商会の活動内容の分析に着手した。

この時期は、セントルイス万国博覧会 (1904) を挟んでおり、商会は、「日光式展示室」で室内装飾部門の最高賞を受けている。また、ロンドン支店・パリ代理店の開設、2つのロイヤルワラント獲得の一方で、大阪の家具工場の開設を果たした。家具は、折衷的手法により中国風ではあるが、日本の美術骨董品に調和する家具を合わせて生産販売する業務展開は、競合していた他の美術商にはみられないことが分かった。

また、セントルイス博では、日本が回遊式庭園を海外で初めて実現し大きな注目を浴びた。間を置かずライトが翌年 (1905) 初めての日本旅行を果たしたことが注目される。浮世絵の影響とは別に、この時の空間体験が立地条件を生かした建築の着想を生んだ可能性が考えられるが、これまであまり考察されてこなかった。山中商会はその庭園に灯籠や手水鉢などを提供し、その後ボストン支店では、日本の日用品と共に盆栽の販売を開始している。

以上の商会の経営方針から、林は①装飾と生活様式、②折衷的室内装飾、③回遊式庭園の考え方に影響を受け、それは自らの帝国ホテル構想を特徴づけたと考えられる。これらを視点に、林愛作、下田菊太郎、ライト、遠藤新それぞれの「利他」の空間を比較したい。

## ■事務局より

事務局長 棒田邦夫（金沢学院大学）

事務局を任されて1年経とうとしています。お金の管理がルーズで下手な私ができるのか？と、不安ながら始まった役でしたが、幸いなことに支部会員の娘さん、伊藤千佳さんが会計、入退記録管理・名簿管理を引き受けていただいたおかげで何とか乗り越えてこられたと感謝しております。

この紙面をお借りして「伊藤千佳さんありがとうございました。」と、心より御礼申し上げます。この1年事務局を引き受け、事前に何回か打ち合わせはしましたが、実際に運営をしてみると聞くのと話とは大きく違うこともあり右往左往する毎日でした。初めてのことであり会員の皆様には多大なご迷惑をおかけしたと存じます。申し訳ございませんでした。

次年度も引続き二人三脚で頑張ります。会員の皆様どうぞよろしく願いいたします。

この時期インフルエンザ、すぎ花粉が広まっております。それに加えコロナウィルスも国内流行が始まっているとのこと、こまめな手洗い、うがい、マスクで予防に努めてください。まだまだ寒さが続きますので、会員の皆様お体ご自愛ください。

## ■ 編集後記

広報委員 松尾兆郎（穴吹デザイン専門学校）

大会研究発表概要及び理事会のご報告として、会報66号をお届け致します。年度後半の大変ご多用の時期の執筆依頼だったにも関わらず、迅速にご対応いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

会報誌の役割の一つは、「伝えたい情報」を目に留まる形で確実に届けることだと思います。情報媒体としての会報誌が「伝えたい情報」が伝えられるよう、読みたくなる紙面づくりと同時に、いつもの内容は思い切って別の情報媒体へと役割分担していくことも必要ではないでしょうか。形骸化することなく、活発な情報交流の場であり続けるために今後とも努力して参りたいと思います。

二度目の編集作業にも関わらず原稿執筆者の皆様をはじめ関係の皆様にご迷惑をお掛けしましたことを、この

場をお借りしてお詫び申し上げます。今回の編集の中で得られた気づきを広報委員会で共有し、更に皆様のお役に立つ会報誌になるよう努力してまいります。引き続き、皆様の温かいご支援とご鞭撻のほど、宜しく願い申し上げます。

### ■日本インテリア学会会報第66号（2020.3.10発行）

編集者：松尾兆郎

発行者：直井英雄（日本インテリア学会会長）

広報委員会：棒田邦夫（委員長）

井上貴詞、小俣祐樹、清水隆宏、

西岡基夫、松尾兆郎

k-bouda@kanazawa-gu.ac.jp

### ■事務局

日本インテリア学会 事務局 伊藤、棒田

〒920-0941 石川県金沢市旭町1-25-25

電話：080-2386-5652 FAX：076-262-6530

e-mail：jimukyoku@jasis-interior.jp